

NPOの台所

モノは天下のまわりもの

連載

3

資金がない中で事務所契約に踏み切った理由は、情報やサポートの拠点を目指す以上、いつでも人が来られる場所を作りたいからです。そこで、コモンズでは役員や会員有志からお金を借りることにしました。「コモンズ債」というネーミングにしたのは、組織の未来と事業に対して投資して下さいというメッセージを込めたからです。これは、東京のパン屋さん、パン債という私募債を発行してパン焼き機の購入資金を集めた事例からヒントを得ました。ただし法律の関係があつて債権は発行できませんし、NPOは配当をしないので出資という概念がありません。ですから会計処理上は長期借入金、寄託金という扱いにして、10年後に返しますという形にしました。先ほどのパン屋さんは出資者にパンを配りつつ、味に対する評価を得ることで成長していったとのこと。

このようにして敷金礼金などの初期費用を払い事務所がオープン

すると、今度は人と物の問題です。折角の事務所を毎日開けておくには人が必要です。設立当初は昼間勤める人が2人くらいしかいなかったため、早速人集めをしました。ボランティアやNPOに関心があつて昼間勤める人を、知人のつてや社会福祉協議会の紹介で探し、6名のスタッフが集まりました。最初は全員交通費のみのボランティアで週2、3日ずつのローテーションを組みました。

次に事務所には机、キャビネット、電話、FAXなどの機材が必要で、これらの殆どはメンバーが集めてきました。事務機は会員の夫の会社であつたもの、長机とパイプ椅子は、会員のバイト先の塾が閉鎖するのに伴い無償で譲ってくれました。同じようにエアコン、FAX、パソコンなどもみな中古のものが善意で集まってきました。あるものがほしいと会員に伝えておくと会員みなで気がかけて探してくれて不思議とものが集まるのです。ただ意外に大

変なのは輸送でした。大きなものや重いものを運ぶ手段と人手に苦労するのですが、コモンズではよく農業をしている人に軽トラックを出してもらいました。

物運びで忘れられない事件があります。一番はじめに寄贈されたものがスチールキャビネットだったので、それを提供してくれたのは原子力関係の会社でした。とても厳重な警備で何重もの検問を通過して中に進んでいくと、トラックから白い煙がもくもく出だしパンパンと炸裂音が鳴り出しついにエンストしてしまいました。何かと、会社の人も我々もびつくり。なんとか荷を積み、JAFの車に牽引されて事業所を出ることができたのですがとにかく大変でした。トラブルの原因は：なんとかが借りたトラックの燃料を間違えていたのです。みなさん、トラックを借りるときは気をつけましょう。

横田能洋(よこた よしひろ)



1967年千葉県生(33歳)

茨城NPOセンター・コモンズ常務理事
兼事務局長

